

季
刊

まんだらげ



和歌山県立医科大学附属病院広報誌

Vol. **76**

2026
SPRING



特集

慢性疾患をお持ちの方へ 妊娠・家族計画について相談できる専門外来 「プレコンセプションケア外来」がスタートしました

道成寺の桜(日高郡日高川町)

CONTENTS

- Topics
- 県内初! ルタテラ治療を開始しました
 - 高度救命救急センターから、全国初の自治体主導の遠隔集中治療支援が始まりました

- Information
- 肝臓における脂肪合成を調節するメカニズムを解明
 - 糖尿病で治りにくい傷を治す新しい仕組み
 - バセドウ病を防ぐ新たな免疫の仕組みを発見
 - 小児用アヒル型ロボット寄贈
 - 白衣授与式

【理念】

私たちは安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

慢性疾患をお持ちの方へ

妊娠・家族計画について相談できる 「プレコンセプションケア外来」



プレコンセプションケアってどういうもの？

「プレコンセプションケア」とは、「**妊娠前の健康管理**」という意味で、将来の妊娠・出産を見据えて、妊娠前からご自身の体調や生活、治療内容を整えていく考え方です。当院ではこのたび、慢性疾患をお持ちの患者さんを対象に、妊娠や家族計画について安心して相談できるプレコンセプションケア外来を開設しました。

慢性疾患をお持ちの方は、妊娠中に病状が変化したり、早産や胎児発育不全、妊娠高血圧症候群などの妊娠合併症が起こりやすいことが知られています。そのため、早い段階から準備を行うことが大切です。

本外来では、内科・産婦人科・小児科の医師をはじめ、看護師、助産師、薬剤師、栄養士、クラークなど多職種によるチームで、患者さんお一人おひとりの状況に応じたサポートを行います。妊娠が可能かどうか、妊娠中はどのような点に注意が必要か、使用中のお薬が妊娠に与える影響などを一緒に整理し、できる限り安全で健やかな妊娠・出産を目指します。場合によっては、妊娠そのものが高い

リスクを伴うと判断されることもあり、その際は患者さんの健康と安全を最優先にした選択をご提案します。

また、インターコンセプションケア「産後から次回妊娠までの期間における健康管理への取組み」も重要です。前回の妊娠で妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病、早産などの妊娠合併症を発症した方は、次の妊娠で再発するリスクが高くなります。再発のリスクをできる限り下げするために、産後から次回妊娠までの健康管理、また妊娠された後の予防方法や妊娠管理についての情報提供やアドバイスを行います。

プレコンセプションケア外来は妊娠のためだけの外来ではありません。妊娠を希望しない選択や、確実な避妊方法についての相談、将来に備えた情報収集の場としてもご利用いただけます。現在のご自身の体の状態を知り、今後のライフプランを考えるきっかけとして、ぜひご利用ください。

専門外来 がスタートしました

スタッフは女性のみです。
お気軽にご相談ください。



プレコンセプションケア外来のご案内

外来での主な相談内容(30~60分)

- 月経の状態、不正出血、過去の妊娠歴や妊娠合併症
- ライフプラン(挙児希望の有無や時期、産まない選択、高齢妊娠、不妊、流産など)
- 妊娠が疾患に与える影響、疾患が妊娠に与える影響、妊娠中に使用できる薬剤
- ご家族へのサポートや疾患理解
- 助産師による妊娠・生活に関する相談

対象	慢性疾患をお持ちで、妊娠や家族計画について相談を希望される方	場所	産科婦人科外来 第3診察室
日時	毎週木曜日 午後	料金 自費診療です	和歌山県内居住の方: 3,300円(税込) 和歌山県外居住の方: 11,000円(税込)

※希望される方は、かかりつけ医師に相談して予約を取ってもらってください。紹介状が必要です。予約の取り方の詳細は、本誌裏表紙及び病院ホームページに記載しています。

※お薬手帳をご持参ください。
※内診や超音波検査は保険診療となるため、別日予約となります。
※最終的な妊娠許可判断や時期、管理施設については、かかりつけ医師とご相談ください。

このようなお悩みはありませんか？

持病があるけれど
妊娠できるの？

妊娠したら、
自分や赤ちゃんに影響がある？

今の薬は
赤ちゃんに影響しない？

前の妊娠が早産や
妊娠高血圧だったけど、
次は大丈夫かな？

妊娠はまだ先だけど、
今から考えた方がいい？

妊娠は希望しない。
確実な避妊方法を知りたい

不妊治療の先生に、
持病のことをどう伝えれば
いいかわからない

家族やパートナーに、
持病のことをどう伝えれば
いいかわからない



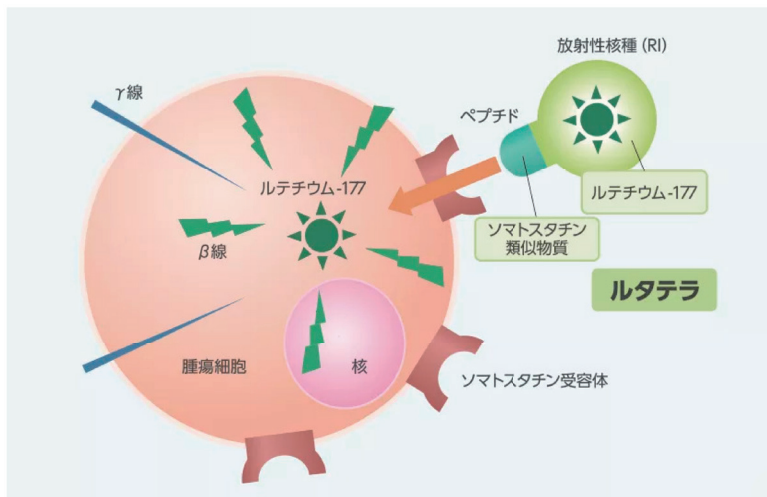
妊娠・出産をゴールとするのではなく、自分の体と人生を見つめ直す機会として。プレコンセプションケア外来は、あなたが納得した選択をし、健康的に人生を歩んでいくためのサポートを行います。どうぞお気軽にご相談ください。

県内初! ルタテラ治療を開始しました

ルタテラ治療について

当院では2025年12月からルタテラ治療が行えるようになりました。「神経内分泌腫瘍」という比較的まれながんに対して行われる、放射線を用いた新しいタイプの治療法です。神経内分泌腫瘍は、消化管や膵臓、肺などにできることがあり、進行がゆっくりな場合もあれば、転移や再発を起こすこともあります。

この腫瘍の特徴として、細胞の表面に「ソマトスタチン受容体」という目印が多く存在します。この目印を利用して、がん細胞を狙い撃ちする治療です。ルタテラは、ソマトスタチンとよく似た物質に、「ルテチウム177」という放射線を出す物質を結合させたもので、体内に入ると、がん細胞に集まり、細胞の内側から放射線を当てて増殖を抑えます。



▲ 画像:ノバルティスファーマ ホームページから抜粋

からだにやさしい“ピンポイント治療”

一般的ながん治療では、正常な細胞にも影響が及ぶことがありますが、ルタテラ治療で使われる放射線は、体内で届く距離が非常に短く、がん細胞の周囲にある正常な細胞への影響が比較的少なくなります。複数の転移がある場合でも、同時に治療できる利点もあります。

治療の流れと入院について

治療を受ける前には、この治療に適しているか、腎臓に問題がないかなど、詳しい検査が必要です。通常、8週間ごとに1回、計4回の投与が行われます。体内の放射線は主に尿から体外に排出されるため、治療時には特別な設備のある病室に入院し、医師からの指示に従った生活が必要となります。通常は、投与後1～2日程度で体内から出る放射線量が基準以下になり、退院できます。

副作用と注意点

副作用としては、吐き気、だるさ、食欲低下、血液中の成分の一時的な減少、腎機能低下などですが、多くは適切な対策で対応できます。

おわりに

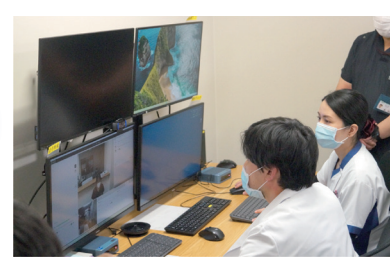
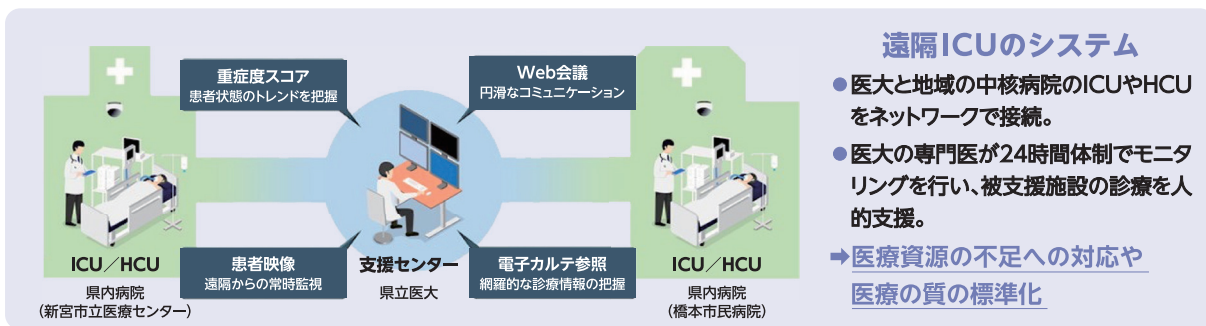
ルタテラ治療は、これまでの治療で十分な効果が得られなかった神経内分泌腫瘍の患者さんにとって、新たな選択肢となる治療法です。治療の適応や効果、副作用には個人差があるため、主治医と十分に相談することが大切です。



高度救命救急センターから、 全国初の自治体主導の遠隔集中治療支援が始まりました

和歌山県立医科大学附属病院 高度救命救急センターは、県内全域の重症患者さんを支える中核医療機関として、地域医療の最後の砦の役割を担ってきました。当センターでは2004年よりドクターヘリを運航し、山間部や沿岸部など医療資源の限られた地域から、多くの患者さんを迅速に受け入れてきました。一方で、ドクターヘリには夜間飛行ができないことや、悪天候時には出動できないといった制約があります。特に新宮地域や橋本地域では、陸路での搬送に長時間を要する場合も多く、救急専門医や集中治療専門医による早期判断が難しい状況が生じていました。

こうした課題に対応するため、当センターでは2026年1月20日より、全国でも例のない自治体主導の遠隔集中治療支援を開始しました。現在は、橋本市民病院および新宮市立医療センターを支援対象とし、重症患者さんや急変リスクの高い患者さんを中心に遠隔支援を行っています。



▲ 遠隔ICUについて話す高度救命救急センター長の井上茂亮教授（右端）

この遠隔集中治療支援では、生体モニターや検査データ、カメラ映像、電子カルテなどを共有し、専門医や看護師が離れた場所から患者さんの状態を確認します。現在の支援体制は、週2回（火曜日・木曜日）の昼間時間帯を基本とし、定期的なカンファレンスやコンサルテーションを通じて、治療方針や対応について助言を行っています。

これにより、転院の必要性や治療継続の可否をよりの確に判断できるようになり、患者さんご本人だけでなく、ご家族の方にとっても、より安心して治療を受けていただける体制となっています。当センターは今後も、ドクターヘリと遠隔集中治療支援の両輪を活かし、県全体で患者さんを支える医療体制づくりを進めてまいります。

小児用アヒル型ロボット寄贈

この度、アフラック生命保険株式会社から、地域への貢献と本学附属病院の設備充実のため、小児用アヒル型ロボット「マイ スペシャル アフラック ダック」を5羽寄贈いただきました。同ロボットは、小児がんの治療で入院する子どもたちの感情表現を手助けします。2026年1月9日に本学にて贈呈式が行われ、本学小児科学講座の徳原大介教授が、同社和歌山支社の杉山健太郎支社長へ感謝状を贈りました。



▲ 徳原教授(左)と杉山支社長(右)

白衣授与式

医学部新5年生に対する白衣授与式を2026年1月23日に本学講堂で執り行い、本学の校章と学生一人ひとりの名前を刺繍した白衣を授与しました。白衣授与式は、全国共通の問題を用いて行う医学全般の知識・実技の試験に合格し、臨床実習を行うことを許された医学部生が医療人としての心構えを再認識し、決意を新たにすることを目的としています。

式典では、壇上で全員に白衣を授与後、学生代表が臨床実習に向け、決意表明を行いました。現在、学生たちは各診療科において知識と技術の習得に一生懸命励んでいますので温かく見守っていただければ幸いです。



バセドウ病を防ぐ新たな免疫の仕組みを発見 —TSH受容体ペプチドが制御性T細胞を誘導—

甲状腺機能亢進症(バセドウ病)は、甲状腺が必要以上に刺激されることで、動悸(どうぎ)や体重減少、手のふるえなどの症状が出る「自己免疫疾患」です。現在行われている治療法(飲み薬、放射線、手術)は、約80年以上前から大きく変わっておらず、症状を抑えることはできても、病気の原因そのものを治すことはできません。

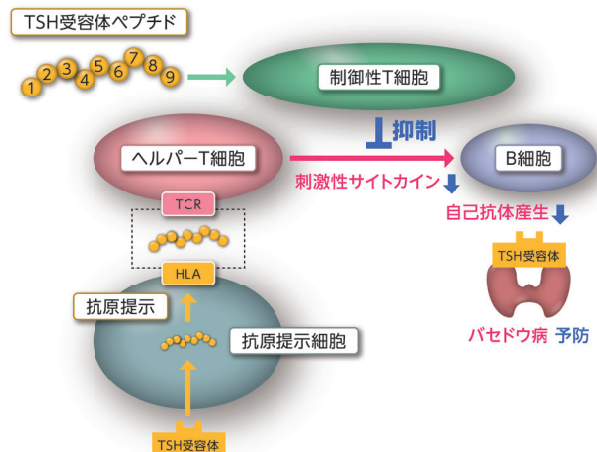
本来は作られないはずの甲状腺のTSH受容体に対する「自己抗体」が産生されることがバセドウ病の原因で

す。そこで和歌山県立医科大学・生理学第2講座の研究チームは、TSH受容体の一部のペプチドを用いて免疫異常の是正を検証しました。その結果、ペプチドをあらかじめ投与することで免疫の暴走を抑える“制御性T細胞”が増え、バセドウ病の発症を防ぐことが分かりました。

この成果は、薬などで症状を抑える治療ではなく、病気そのものを治すことを目指した新しい治療法「抗原特異的免疫療法」につながる可能性を示しています。



▲ 記者発表する稲葉講師(左)と中田教授(右)



肝臓における脂肪合成を調節するメカニズムを解明

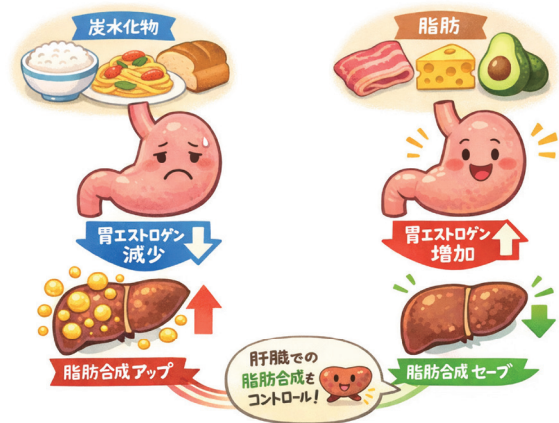
血中脂肪は、インスリンやグルカゴンによって調節される血糖値と異なり、どのように調節されるのかは長年知られていませんでした。私たち和歌山県立医科大学・解剖学第1講座はこれまでの研究で、血中脂肪が上昇すると胃から分泌されるエストロゲン(胃エストロゲン)が増加し、血中脂肪を低下させることを報告してきました。

今回の研究では、胃エストロゲンの分泌が炭水化物の摂取で減少し、脂肪の摂取で増加することを明らかにしました。エストロゲンには肝臓での脂肪合成を抑制する作用があることから、胃エストロゲンは食事中の脂肪量

に応じて肝臓での脂肪合成を調節すると考えられます。しかしながら加齢とともに、胃エストロゲンを産生する細胞や、その材料となる男性ホルモンが減少するため、胃エストロゲン分泌が低下し、その結果、脂肪肝を発症しやすくなります。実際に中年以降の男性に脂肪肝が多く認められます。本研究は、脂肪肝の理解とその治療法に新たな視点を示すものであり、その成果は Scientific Reports 誌に掲載されました。



▲ 記者発表する尾崎講師(左)、伊藤助教(中)、金井教授(右)



糖尿病で治りにくい傷を治す新しい仕組み

糖尿病になると、ちょっとした傷でもなかなか治らず、感染や重症化によっては足の切断に至ることもあります。日本には多くの糖尿病患者が存在し、「傷が治りにくい」ことは生活の質を大きく下げる深刻な問題となっています。私たち法医学講座の研究チームは、なぜ糖尿病では傷を治す力が弱くなるのか、その仕組みを明らかにする研究を行いました。

健康な体では、けがをすると白血球が集まり、その後「線維芽細胞」という細胞が働いてコラーゲンや新しい血管を作り、皮膚が再生します。しかし糖尿病では血流の低下や炎症の異常により、この線維芽細胞の動きが弱まり、修復が進まなくなります。私たちは「オンコスタチンM(OSM)」というたんぱく質に注目し、これが傷を治すための合図として重要な役割を持つことを発見しました。

マウスを用いた実験では、この合図を受け取る仕組み

が弱まると傷の治りが遅れ、逆にOSMを補うことで糖尿病でも傷の治りが改善しました。今回の研究は、糖尿病などで治りにくい傷を早く治す新しい治療法の開発につながる可能性があり、患者さんの生活の質向上に貢献することが期待されます。



▲ 記者発表する國中特別研究員(左)、石田准教授(中)、近藤教授(右)

和歌山県立医科大学の
最新の研究内容をより詳しく知りたい方は
公式HPの広報ページをご覧ください。



和歌山県立医科大学 広報 検索

掲示板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ご予約の流れ

- 1 かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- 2 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- 3 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- 4 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805
【受付時間】月・火・水・金・・・9:00～19:00
木・・・・・・・・・・・・・・9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489
【受付時間】月～金・・・8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

病状説明などの勤務時間内実施について～ご協力をお願い～

働き方改革関連法により、令和6年4月から医師の時間外労働の上限規制が始まり、医療従事者等の労働時間短縮に向けた取り組みが求められています。

当院においても、医療の質や安全を確保しつつ、持続的な医療を確保するため、医療従事者の負担軽減と労働時間の短縮に向けた取り組みの一つとして、病状説明等については、緊急の場合を除き、平日の勤務時間内に限らせていただきます。

患者さん、ご家族の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

【病状説明等の実施時間】

平日の勤務時間内
(9:00～17:00まで)

※診療上、病状の変化や緊急時について医師が判断した場合には、この限りではありません。

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.76)

2026年4月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300

FAX 073-441-0706

ホームページアドレス
<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>
「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間: 午前8時50分～午前11時30分
 - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
 - 休診日: 土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
2026年
7月です。